

出所：“S. E. グラッシング” <seigan_@hotmail.com>

主題：問題発生

日付：2011年6月22日 4時28分29秒

宛先：<grace@schireson.com>

Cc：古佛マローン<kobutsu.malone@gmail.com>

親愛なるグレース

3月にお会いして以来ご無沙汰が続いていますが、最近発生した問題について近況報告したいと思えます。

まず第一に（貴女もご存知かと思いますが）嶋野の“制限付きで教える事”を許可する協議が進められています。彼は最も忠義な弟子を操って理事会に圧力をかけています。殆どの理事会員は嶋野の復帰には完全に反対のようです。しかし露光は両者の境界線にあって、この間をぐらついています。彼女の立場は彼の復帰によって楽になることは確かでしょう。このような成り行きになるかもしれないという懸念はあったのですが、それがそのまま起こりました。理事会はDBZで僧伽会議を開き（このような曖昧な会議で事を決定する事は絶対に良くないのですが）さらに嶋野の嗣法の弟子に司会を頼んだのです。（この計画は僧伽の猛反対によって取り消されました）と言う訳で私達は今、嶋野の教えに立つ地位に関して嶋野を交えて討議すべく理事会より僧伽への申し出を待っている状態です。この事について私はげんじょうに手紙を送り、彼はこの手紙を理事会員に見せて私がどのように感じているかを説明しました。そのコピーを貴女に送ります。

2011年6月12日

親愛なるげんじょう

先週は会えてよかった； ZSSによって対嶋野協議が順調に進んでいる事を知って安心しました。又、貴方の理想主義と楽観主義が（他の理事会員も含めて）事態の進展に功を奏している事を知って元氣付けられました。しかし同時にソサイエテイ内では、相変わらず反機能的、公明性の欠如、一部のメンバーは未だに嶋野に付着し続けているなど、心配しています。最も気がかりな事は嶋野が復帰して、制限付きで教壇に立つ事を許可する協議が開かれようとしている事です。

私の意見を申しますと、如何なる状況下においても嶋野をソサイエテイに復帰させてはなりません、これは災厄の原因になるでしょう。彼には負債があるのです。“善なる人びと”が彼は人びとの生命の中に生じた等と言ってみた所で、彼のもたらした被害と苦痛を上回るものではありません。先週私達が会った時私が言ったように、あなたの人生を救済したのは、彼ではなく貴方自身の仏心によるものなのです。

最近、理事会と嶋野との間で彼の退職契約が協議されました。策謀家の彼は、会議事項を強奪して自分に都合の良い方向に転換させました。この日、7時間の調停協議の後、理事会にとって明白に分かった事は、彼には悔恨が全く無く、彼自身の復帰のための計略のみだと言う事です。私が案じている事は、恐らく彼は、彼の退職契約の一部として“ごく制限された範囲”で教壇に立つという条件を要求するのではないかと言う事です。疑いなく彼は、仏法的誇張法を使用して“完璧な”修行を彼の嗣法または高弟に与えたいと言うでしょう。彼は退職契約の変更（総額を引き下げる）を受け入れる為には、彼に制限付きで復帰を許し教壇に立つ事を許可すると言う提議を出すと思います。制限付きでと言う事は、次の段階への第一歩です。私は理事会が彼とこのような取引をする事自体、後退を意味し危険な事だと心配しています。注意して下さい。

彼は背後で巧みに操縦し、残った弟子等（多分理事会の中にもいます）を利用して彼の道を開こうと試みている事は明白です。彼はこのような事に熟達しています。私は過去何度も彼がこのような事を行うのを見ました。彼の力を軽視しないように。彼と交渉、取引する事は禁物です。両者の交流は彼の法律家と貴方の法律家に限定することです。妥協や取引の時期はとうの昔に終わりました。彼の嘘、彼の行為に対する後悔の無さ、さらに陰険な手段をもって彼自身の仏法継承者、血脈を汚し同時に是認の権利を主張している、彼は自ら信用出来ない男である事を証明しているのです。

嶋野は公に退職しました；彼の教えは終わりました（彼の弟子に対する訓練が終わったか否かに関わらず - 禅では基本的に“終了”と言う事はありません）。ZSSは彼無しに民主的な教団の将来を待ち望むべきです。

レピュディウム (repudium) という言葉、“離婚とか捨て去る” という意味です。25年間嶋野のもとで修行した後、私は彼と (repudiated) 縁を切りました。これは絶対に必要な事で、精神の治癒のためでした。ZSS理事会もこの方向に向かっているのかもしれませんが。治癒のため貴方も嶋野との関わりを絶つことは避けられぬ事だと思います。貴方に強くあって欲しいと思います。

この手紙を理事会のメンバーの方々に見せて下さって結構です。敬具、

せいがん エド グラッシング

私は嶋野が言ったという引用文を、現在の理事会員より受け取りました。

“もし、女に言い寄られてこれを拒絶するならば、彼女を受け入れるよりも大きな間違いを犯したことになる”

この男を二度と教職につけてはいけません。

お元気で、

せいがん